

■野崎武左衛門 開墾家。塩田200町歩近く、新田700町歩余りを開拓し、“日本の塩田王”に。

のざきぶざえもん

初の横綱・・・1789＝ 備前国児島郡味野村で、昆陽野貞右衛門の長男に生まれる。

松平定信引退1793＝ 4歳：

古事記伝・・・1798＝ 9歳：

ヱゾ船狼藉・・・1807＝18歳：

浮世風呂・・・1809＝20歳：妻を迎えると、家伝の道具類を売却した資金で、瑜伽山信仰参詣者の土産となる足袋の製造販売に着手。

岡山城下や西大寺で木綿を仕入れ、家人の協力を得て足袋に加工、金毘羅宮信仰のある対岸の讃岐まで行商するなどして順調に発展させ、

黒住教・・・1814＝25歳：この頃には、近隣の農家の子女を雇って工場制手工業を営み、父とともに安芸・周防・長門まで足を伸ばした商売をするまでになり、

伊能測量終・・・1816＝27歳：

水野忠成老中1818＝29歳：

銀120貫を蓄えるまでになったが、

異国船打払令1825＝36歳：この頃、*売掛金の回収が不可能になって行き詰まり、新たな転身を求めて、妻の伯父で天城村大庄屋格の中島富次郎に相談、三つの案のうち塩田開発のみ可能性があると勧められ、他の親類の反対に、自ら行商した先の塩田を調査、三田尻浜の塩業家三浦源蔵の著した奥義「塩製秘録」を見出し、書写して帰郷、
日本外史・・・1827＝38歳：_経営方法や収支見通しを研究して決意し、藩庁の許可を得、蓄えた資金に、親類の豪商からも資金を調達し、瀬戸内各所から技師・労働者を集めるなど、万全を期して、塩田開発に進出。

シボク事件・・・1828＝39歳：愛読する「太閤記」の木下藤吉郎の清洲城修理に倣って、効率良い現場指揮を行い、まず味野村沖新開、

シボク追放・・・1829＝40歳：続いて赤崎村沖新開の潮止めが完成、

富嶽三十六景1831＝42歳：*検地の結果、48町歩の塩田が得られ、両村から一字ずつとって野崎浜と名づけ、家も野崎姓に改める。

高島砲術・・・1834＝45歳：_休浜法を導入して生産効率化。

_大庄屋の名義を借りた日比亀浜開発に続いて、

大塩平八郎乱1837＝48歳：

適塾オプン・・・1838＝49歳：_東野崎浜の開発に着手し、

天保改革始・・・1841＝52歳：_73町歩余を完成させる。

順天堂始・・・1843＝54歳：

_さらに、久々井浜はじめ、児島郡・邑久郡の瀬戸内沿岸部に塩田築造を進め、

阿部正弘首座1845＝56歳：

・・・・・・1847＝58歳：子孫のために自伝と家産運用の心得「家務井融通銀仕法録」を書く。

北斎没・・・1849＝60歳：_塩田開発技術を生かして福田新田開発に着手、

尊徳報徳論・・・1851＝62歳：_61町余を完成させ、

万次郎帰国・・・1852＝63歳：

ペリー来航・・・1853＝64歳：*福田新田5カ村の大庄屋役を拝命。この年、瀬戸内に休浜法を推進する十州塩田同盟が成立し、以後、備前の盟主として2年に1度の瑜伽山全国大会を取り仕切る。

_以後も開発を継続し、数年後には133町余に達する。

桜田門外変・・・1860＝71歳：

遣欧使節・・・1861＝72歳：

8月18日政変・・・1863＝74歳：_財政危機に陥った岡山藩に一万両を献金。

禁門の変・・・1864＝75歳：*全塩田を直営する方式に切り換え、野崎家経営の精神的支柱となる「申置」7カ条を遺して、没した。

「人づくり風土記(岡山)」、